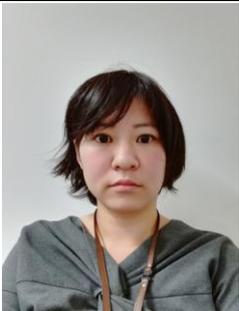


特定非営利活動法人 日本免疫学会
 平成 29 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
 研究発表報告書

申請者氏名	藏田 泉	会員番号	0035131	
申請者の所属・職名	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 博士課程 2 年			
出席会議名	2017 American College of Rheumatology Annual Meeting			
発表論文タイトル	The Role of Follicular Helper 17 T cells in Glucose-6-phosphate Isomerase Induced Arthritis			

実施結果:

この度は Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜り誠にありがとうございました。

私は 2017 年 11 月にアメリカ サンディエゴで開催された American College of Rheumatology (ACR)に参加し、ポスター発表を行いました。

本学会は Rheumatology における世界最大の学術集会であり、自己免疫疾患の基礎免疫学、また臨床医学への発展について知見を深めることができました。免疫学を学び、研究し、また自己免疫疾患の診療を行う者として大変有意義な機会であったと思います。

私はポスターセッションにて、関節炎モデルマウスのリンパ節中において関節炎発症期に IL-17 産生濾胞性 T 細胞が増加しており、自己抗体の糖鎖修飾を介して関節炎発症・増悪に関与している可能性があるという研究成果を発表致しました。濾胞性 T 細胞の研究をしている海外の研究者や、また濾胞性 T 細胞と同等の機能を持つとされる peripheral helper T cell を発見した Harvard 大の Brenner ラボの研究者と discussion をかわすことができ、彼らからの質問から今後の方向性について新たな課題を得ることもできました。

また、学会で他のポスターや口演を聞き、自己免疫分野においては T 細胞の詳細な解析よりは、T 細胞と非免疫細胞の関わりがこれからの研究の課題となっていくことを実感いたしました。またプロテオミクスやメタボロミクスなどの網羅的解析を行っている研究も多く聞くことができ、これからの自分の研究へどう活かすかのアイデアを考えることができました。

Tadimitsu Kishimoto International Travel Award で選出していただいて得られた今回の経験を無駄にしないよう、今後も自己免疫研究に精進していきたいと思っております。最後になりますが、岸本忠三先生をはじめ、選考委員の先生方ならびに推薦して下さった住田孝之先生に厚く御礼申し上げます。